

小児がん治療のため

支援広げる レモネード



レモネードスタンド活動に取り組んだ平田寧々さん（右）
＝南陽市・いちようの家

平田さん 東海大 山形高 地元で販売、賛同呼びかけ

南陽 南陽市出身で、小学生のころに小児がんを患った東海大山形高3年の平田寧々さん（17）＝山形市＝が、「レモネードスタンド」に取り組んだ。飲み物のレモネード販売を通じて小児がん治療の支援につなげる世界的な活動で、平田さんは地元の南陽市で先月下旬に初めて実施し、周囲の優しさに触れながら、活動への賛意を求めた。

米国の小児がん患者が「人となり、自らが所属する「同じ病の人のため治療の研究費を寄付したい」と始めたレモネードスタンドは、世界中に広がり、国内でも展開されている。今年3月に平田さんが呼びかけ

同市のボランティアサークル「にじ」の中高生4人が活動に加わった。「レモネードはいかがですか」などと支援を訴え、会場内に善意の輪が広がった。平田さんは買い求める人にレモネ

ードを手渡した。用意した約100本は1時間ほどで完売した。

中学時代まで南陽市で過ごした平田さんは、賛同した地元住民やにじのメンバーに感謝し「まずは活動や支援が必要なことを知ってもらうことが大事。取り組みが県内全体に広がるように頑張っていきたい」と話した。

（黒沢光高）